

豊前市立小学校の再編計画の見直しについて

1 計画の見直しと財源確保について

豊前市では、児童数の減少や将来の教育環境を見据え、豊前市立小中学校再編成計画を進めています。

このたび、小学校の再編計画内容について検討した結果、八屋小学校、宇島小学校、三毛門小学校については、当面**存続**とし、現状の学校運営を継続することとしました。

一方で、大村小学校、角田小学校、山田小学校、千束小学校、黒土小学校、横武小学校の再編については、これまでの計画どおり進めます。

さらに財政面においても有益性の高い地方債を活用し財源の確保に努めます。ただし、この地方債の借入については、廃校となる小学校の一部及び八屋中学校を除却する必要があります。

変更前	変更後
・八屋小学校 ・宇島小学校 ⇒ 豊前北小学校（現・八屋中学校） ・三毛門小学校 【令和11年度開校】	・八屋小学校 ・宇島小学校 ⇒ 再編計画を延期し、当面は現在の学校運営を継続します ・三毛門小学校 ※ エアコン更新、トイレ洋式化、体育館へ空調設置、照明のLED化 校内通信ネットワーク更新、非常勤講師の配置
・大村小学校 ・角田小学校 ・山田小学校 ⇒ 豊前中央小学校（現・千束中学校） ・千束小学校 【令和11年度開校】 ・黒土小学校 ・横武小学校	・大村小学校 ・角田小学校 ・山田小学校 ⇒ 計画どおり、豊前中央小学校（現・千束中学校）へ再編します ・千束小学校 【計画どおり令和11年度開校】 ・黒土小学校 ・横武小学校

2 豊前中央小学校1校のみの整備にとどめ、豊前北小学校の整備を当面延期とした理由

- ・学校再編の必要性そのものには変わりはないものの、近年の建築資材価格や人件費の高騰により、事業費が当初の想定を大幅に上回る見込みとなっている。このため、2校を同時に整備するには財政負担が大きく、将来的な市政運営への影響が懸念されること。
- ・豊前中央小に再編される小学校では既に複式学級が生じているため、教育環境の改善を優先し、まずは豊前中央小の再編を進め、学校規模の適正化を図る必要があること。
- ・過去3年間の出生数が100人を下回る状況が続いており、今後も児童数の大幅な減少が見込まれることから、当面は児童数の推移を注視し、その状況を踏まえながら改めて再編計画を検討する必要があること。

3 再編計画が延期となった3校（八屋小学校・宇島小学校・三毛門小学校）への対応について

- ・3校については、エアコンの更新、トイレ洋式化、体育館への空調設置、照明のLED化、校内通信ネットワーク更新などの環境整備に取り組むほか、市の非常勤講師の配置など、充実した教育活動が維持できるよう取り組んでまいります。